

特集 ベートーヴェン演奏のオーソリティたち〈1〉ピアニスト編 特別企画：恐るべし！ 円熟演奏家のパワー

The Ongakugendai  
Vol.50 No.3 March

# 音楽現代

3

クラシック音楽誌

特集 ベートーヴェン生誕250年記念第2弾

## ベートーヴェン演奏のオーソリティたち 〈1〉ピアニスト編

特別企画 **恐るべし！ 円熟演奏家のパワー**  
～70歳以上の演奏家たち

カラー口絵 ベルリン・フィルのジルベスター・コンサート  
パリ・オペラ便り A.メサジェ「フォルチュニオ」  
神戸市室内管弦楽団 ベートーヴェンの森 第1回  
神奈川県民ホール「ファンタスティック・ガラ・コンサート2019」

インタビュー 莊村清志、近藤嘉宏 ほか



# 藤田めぐみのシヨパン／24のエチュード全曲演奏会

## 「誰でもシヨパン…エチュード」マスタークラス@TOKYO Vol. 2

ピアノリストの藤田めぐみによる、シヨパン「24のエチュード」全曲演奏会と「誰でもシヨパンエチュード」マスタークラスが去る1月16日、東京・渋谷のカワイ表参道コンサートサロン「パウゼ」で行われた。東京ではこれが2回目。(主催／フジタ・マスタークラス実行委員会)

午後6時から、第一部としてシヨパンのエチュード作品10と25を一気に演奏した。

1曲だけでも非常に高度なテクニクと高い芸術性が必要なこのエチュードを、インターヴァルを置かず全曲通して演奏するのは、テクニクは勿論、タフな集中力と体力、柔軟性など、様々

な要素が必要になってくる。藤田は全曲演奏だからといって余計な力を入れず、それぞれの曲に必要なだけのエネルギーを使う、言わば省エネ奏法で全曲を演奏し切ったように感じられた。

しかしながら力を抜いても手は抜かない。雄大さが必要な曲では雄大に、「別の曲」では情感豊かにメロディーを歌わせ、「革命のエチュード」では最後まで緊迫感を持って演奏するなど、作品10でも25でも、各曲で求められる要素をしっかりと満たし、聴く者を惹き付けた。

最後まで集中力を切らさずにバランス良く演奏するのは、この曲に求められるテクニクはもとより、精神力や力の

配分にも鍵があるように感じられた。休憩を挟んでマスタークラスに移る。ここでは長時間の公開レッスンと短時間のワンポイント・レッスンが1人ずつ行われた。

公開レッスンでは、まず受講者(男性)が作品10の第1番を演奏。藤田はその演奏について、「全曲演奏も聴いていたので事前練習もできず、手も温まっていなままなのに、これ程きちんと演奏できるのは素晴らしい」と賞賛した。そして2小節ごとに上昇下降を繰り返すアルペジオの弾き方について、ハーモニを感じながら弾くこと、2小節の最後の音をきちんと方向性を持って弾

くこと、力の入れ方・抜き方や弾く方向性も大事とアドヴァイス。更に、「練習していないと指は開かない。開かないことで間違える所は、指が開くまで直さず待つ。無理に開いて直そうとすると、他の所に無理がいく。練習しているうちに開いてくると、開かないために間違えた所は直ってくる」と、自身の体験も交えながら、練習方法をアドヴァイスした。

ワンポイント・レッスンでは、受講者(女性)が作品10の第5番を演奏。ここでも力の入れ方・抜き方、音の方向性、響かせたい音は上向きに、そうでない音は下向きに、など細かく熱心な指導を行った。(取材・文 横谷貴二)



エチュード全曲演奏会



エチュード全曲演奏会



マスタークラス



マスタークラス